



中学校区一貫教育校園

玉野市立八浜中学校

令和3年2月5日

第10号

発行：浅野元志

幸吉のあるさと

HP アドレス <http://www.ednet.tamano.okayama.jp/jhs-hachihama>



教育活動アンケートのまとめ

12月にはお忙しい中2回目の「教育活動についてのアンケート」にご協力いただき大変ありがとうございました。このアンケートは、本校の教育活動を学校（教職員）だけでなく、生徒や保護者の方々にも診断していただき、令和3年度の教育活動に役立てるために実施させていただきました。遅くなりましたが、今回のまとめを報告させていただきます。

別表のアンケート結果の、それぞれの項目に関する回答のうち、「4：よく当てはまる」及び「3：当てはまる」を肯定的なご意見ととらえ、その割合を掲載させていただきました。また、各項目で80%を超えるものを『よくできている』・80%未満～70%を『まずまずできている』と考え、逆に70%未満～50%を『努力を要する』・50%未満のものを『特に努力しなければならない』ものと考えております。

全25項目中、「肯定的な意見」の平均値は生徒が87%、保護者が87%、教職員が92%であり、三者平均は89%（昨年89%）で、総合的にみて良い評価とらえています。

また、ほとんどの項目で、三者平均が80%を超えており。そのうち90%を超えた項目は16項目ありました。特に、95%を超えたのは以下の5つの項目です。

項目8「あいさつの励行や時間・服装のけじめ等、基本的な生活習慣の育成を目指した指導を適切に行っている。」

項目9「決まりを守ることのたいせつさを教えてくれる。きまりの意義を理解し、遵守する姿勢や、公共心の育成をめざした指導を適切におこなっている。」

項目10「子供と積極的な対話を図り、信頼関係を築くために努力している。」

項目17「子供が感謝や思いやりの心を身につけるための指導を適切に行っている。（保護者・教員）」
「思いやりの心や感謝することの大切さを教えてくれる（生徒）」

項目24「学校は地域や保護者に対して協力を呼びかけ、その力を教育活動に生かすように努めている。」

中でも項目17を肯定的に評価した生徒が97%と高い値を示したことは、今年度の重点とした「道徳教育を充実させるとともに、様々な場面で人権教育を推進し、人権意識の高揚を図る。」取組が十分機能した結果だと思われます。

また、項目2「授業の内容や教え方が工夫されていて、分かりやすい(生徒)」「指導の内容や方法を工夫し、子供にとってわかりやすい。(保護者・教員)」の三者平均は95%に達してはいなかったものの、生徒の96%が肯定した回答をしていました。これは、本校が取り組んでいる「教えて考えさせる授業」の充実により、基礎基本の習得が徹底し、主体的な学び近づいているからだと思われます。来年度も、今年以上に充実させるよう取り組んでまいります。

一方、本年度の課題であり、向上しなかった項目は、次の項目です。

項目4「宿題・予習・復習など家庭学習はきちんと取り組んでいる。子どもの家庭学習の習慣化を図っている」
三者平均79%（昨年79%）

保護者は75%（昨年71%）、生徒は74%（昨年70%）、教職員が89%（昨年94%）と、教職員の数値の落ち込みが見られます。家庭学習の時間は県平均よりも下回っており、本校のここ数年の課題でもあります。家庭学習の習慣化を目指し、更なる取り組みが必要と考えております。

また、生徒に意識させたいのは次の項目です。

項目23「学級や学年通信・学校だよりなどを忘れずに保護者に見せている。」に対し、

1年生70%(昨年65%)、2年生55%(昨年62%)、3年生54%(昨年84%)と低い結果でした。きちんと見せるよう指導しますが、家庭でもよろしく願います。また、学校としては、生徒への指導とともにスクール連絡網を今以上に活用し、学校からの配布物等の連絡を直接保護者に伝えていくことを考えています。

項目20「周囲の人ときちんと挨拶ができる。」

保護者は87%(昨年86%)、生徒は94%(昨年92%)、教職員は71%(昨年62%)で、昨年よりは改善したものの、生徒と教員で大きな差があります。生徒はしっかり挨拶していると思っていますが。受ける側からすると声が小さかったり、恥ずかしそうにしていたりと、挨拶していても不十分と感じているようです。高校入試の面接の時に当たり前にきちんとした挨拶ができるよう、普段から指導していきたいと思えます。

来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

本校では、数年前より「教えて考えさせる授業」の取組によって授業改善に努め、主体的・対話的で深い学びを実践してきました。その取組は、来年度改定される学習指導要領も示されている所でもあります。それを全職員が一致団結して取り組むことにより、成果が少しずつ表れ、授業の中で生徒がいきいきと活動する場面がたくさん見られています。しかし、個人による学力差や教科による課題もあります。また、家庭学習の定着や進路指導、個別の学習指導等に不十分な面があります。この点は、GIGAスクール構想によるタブレットの使用によって個人に最適化された内容を学習に取り入れることで改善していきたいと思えます。また、生徒指導では、学習規律の徹底や生徒一人ひとりへの対応について反省すべき点があり、学校全体でより丁寧な取組を行う必要があると考えています。今後は、これまでの取組をさらに進めるとともに、中学校区での連携を強化し、中学校区一貫教育校園として、育てたい子ども像を明確にし、9か年を見通した指導を行っていきます。また、それぞれの学校園で課題を分析し、共有しながら継続した取組をすることが一層大切であると考えています。

リモートひめゆり平和学習



2月1日(月)に玉野青年会議所の協力の下、八浜中と沖縄県糸満市にある、ひめゆり平和祈念資料館を繋ぎ平和学習を行いました。

資料館職員の仲田様がひめゆり学徒隊について写真やイラストを用いながら当時の話をしてくださいました。その後、ひめゆり

学徒隊員だった津波古ヒサさんのインタビュー映像を見ました。当時の記憶を思い出しながら南風原陸軍病院豪での負傷兵の話や友達の様子、壕を捨てての移動などについて優しい口調で話されていたのがとても印象深かったです。また、当時の教育によって、「捕虜になって苦しい思いをするよりも死んだほうが良いという考えを植え付けられていた。」と回想されていました。このリモート平和学習を終えて、生徒が次のように質問しました。「私たちにできることは何でしょうか。」仲田さんは

「まずは戦争について知ること。1人1人がしっかり学んでください」と答えられていました。他人事ではなく、自分のこととして考えていくことが大切だということを伝えられたのではないかと思います。

3年生はとても貴重な体験をさせていただきました。

